

多施設共同での維持透析患者に対する生体肝移植成績の検討

はじめに

維持透析患者に肝移植を実施した 17 施設よりデータ収集を行い、本邦での維持透析患者に対する生体肝単独移植成績を明らかにします。

研究内容

我が国では脳死肝移植が発展しないことから肝腎同時移植を受けることは現実的には困難であり、維持透析患者も生体肝移植を選択せざるを得ない現状です。生体肝移植は術後に投与する点滴の量などに難渋することも多く、腎機能障害を合併する肝移植患者では肝移植成績が低下すると言われています。しかし、維持透析患者のみに絞った肝単独移植成績の検討は本邦においては未だ行なわれていません。

対象

維持透析導入後に肝移植（生体移植、脳死移植）を実施した症例。

事前に全国の肝移植施設に維持透析者に対して肝移植を実施した症例数を調査したところ、17 施設より 46 例の該当症例報告あり、全例を対象とします。九州大学病院の対象症例は 2 例です。

被験者の対象期間は 1997 年 5 月 2 日から 2013 年 8 月 18 日までです。

本研究の対象となることを希望されない方はお申し出下さい。

方法

17 施設にレシピエント情報（年齢、性別、肝原疾患、身長、体重、血算・生化学値、腹水量、脳症の有無、Child-Pugh スコア、ME L D、転帰、術後合併症、感染症、死亡症例はその原因、術前状態、腎原病名、透析導入時期、透析導入期間、術後免疫抑制剤、投与方法等）、ドナー情報（年齢、性別、続柄等）、手術情報（手術時間、出血量、グラフト種類、グラフト重量、虚血時間、GV/SLV 等）に関するアンケートを送付、収集したデータを検討します。九州大学病院のデータを含め、17 施設のデータは全て長崎大学移植・消化器外科に送付し、長崎大学移植・消化器外科にて解析します。

研究期間

承認日から 2015 年 3 月 31 日までです。

個人情報管理について

データはすべて九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科にてコード化し、固有名詞は記号化し、個人の特定を防ぎます。得られた結果は研究目的以外には使用しません。論文や学会等で公表する場合は個人が特定されないようにします。

医学上の貢献

維持透析者に対する肝単独生体肝移植の成績が明らかとなれば、維持透析者に対する肝移植適応の知見が得られると考えられます。

研究機関

九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科及び下記共同研究施設

大阪大学消化器外科、岡山大学肝・胆・膵外科、

金沢大学消化器・乳腺／移植再生外科、京都大学肝胆膵・移植外科、

京都府立医科大学移植・一般外科、熊本大学小児外科・移植外科、

慶應義塾大学外科、神戸大学肝胆膵外科、

国立成育医療センター、東京医科大学八王子医療センター消化器外科・移植外科、

東京女子医科大学消化器外科・腎臓外科、長崎大学移植・消化器外科、

名古屋大学移植外科、広島大学消化器・移植外科、

北海道大学消化器外科 I、三重大学肝胆膵・移植外科

九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科：前原喜彦（科長）、調 憲（副科長）、
吉住朋晴、池上 徹

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院消化器・総合外科 吉住朋晴

電話：092-642-5466(直通) E-Mail yosizumi@surg2.med.kyushu-u.ac.jp

掲載予定の HP アドレス：<http://www.kyudai2geka.com/>